

## 役員名簿

### 理事・監事

(令和元年7月1日現在)

役職名	氏名	所属
理事長	百島 則幸	理学博士 九州大学名誉教授(放射化学)
副理事長	島岡 隆行	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境システム工学・廃棄物工学)
副理事長	関 好孝	前福岡県環境部長
業務執行理事	仲島 賢	当協会事業本部長兼総務部長
理事	出光 一哉	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(原子力)
理事	今崎 正明	九州電力株式会社 ビジネスソリューション統括本部 地域共生本部(環境)部長
理事	大上 和敏	理学博士 大分大学教育学部教授(地球化学)
理事	勢一 智子	西南学院大学法学部教授(環境法学)
理事	関根 雅彦	工学博士 山口大学大学院創成科学研究科教授(衛生工学・環境工学)
理事	二渡 了	工学博士 北九州市立大学国際環境工学部教授(環境工学・環境管理学)
理事	山口 敦子	農学博士 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授(魚類学・水産資源学)
監事	甲能 市郎	甲能公認会計士事務所 所長
監事	田中 和教	株式会社ふくおかフィナンシャルグループ 監査役

### 評議員・顧問

役職名	氏名	所属
評議員(会長)	浅野 直人	福岡大学名誉教授 元当協会理事(法学・環境学)
評議員	篠原 雅道	九州電力株式会社 原子力発電本部 原子力管理部長
評議員	杉原 真司	理学博士 九州大学アイソトープ統合安全管理センター准教授(放射化学)
評議員	薛 孝夫	農学博士 元九州大学大学院農学研究院准教授(保全生態学)
評議員	田中 昭代	医学博士 九州大学大学院医学研究院講師(環境医学)
評議員	平松 和昭	農学博士 九州大学大学院農学研究院教授(環境水理学・環境水文学)
評議員	藤岡 祐一	工学博士 福岡女子大学名誉教授(環境化学・化学工学)
評議員	松藤 康司	工学博士 福岡大学名誉教授(衛生工学・廃棄物工学・環境微生物)
評議員	弓削 こずえ	農学博士 佐賀大学農学部准教授(灌漑工学・利水工学)
技術顧問	石橋 健二	工学博士 元九州大学大学院工学研究院教授(放射線計測学・原子力学)
技術顧問	内田 唯史	元当協会副理事長(環境工学)
技術顧問	川野 田實夫	大分大学名誉教授 元当協会副理事長(環境科学)
技術顧問	松岡 信明	理学博士 元当協会副理事長(放射化学)
技術顧問	持田 勲	工学博士 九州大学名誉教授 前当協会理事長(材料化学・プロセス工学)

### 技術諮問委員

役職名	氏名	所属
技術諮問委員	宇野 誠一	水産学博士 鹿児島大学水産学部教授(環境毒性学・環境化学)
技術諮問委員	岡島 敏浩	理学博士 九州シンクロトロン光研究センター主任研究員(放射光物性科学)
技術諮問委員	鬼倉 徳雄	農学博士 九州大学大学院農学研究院准教授(水産学・魚類学・河川生態学)
技術諮問委員	清崎 淳子	理学博士 公益社団法人日本技術士会 理事(地球科学・地熱地質学・防災)
技術諮問委員	久場 隆広	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境工学)
技術諮問委員	小出 秀雄	経済学博士 西南学院大学経済学部教授(環境経済学)
技術諮問委員	下東 康幸	理学博士 九州大学名誉教授(生化学)
技術諮問委員	Sergei Y. Tolmachev	United States Transuranium and Uranium Registries College of Pharmacy, Washington State University 理学博士 ワシントン州立大学准教授(保健物理・放射化学)
技術諮問委員	久留 百合子	株式会社ビスネット 代表取締役
技術諮問委員	広城 吉成	工学博士 九州大学大学院工学研究院准教授(地下水環境学・上水道工学)
技術諮問委員	逸見 泰久	理学博士 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授(動物生態学)
技術諮問委員	矢野 真一郎	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授(環境水理学)
技術諮問委員	渡邊 公一郎	理学博士 九州大学大学院工学研究院教授(地球資源化学)

## 編集後記

本号の編集を担当しました東京事務所長の松崎です。このたびは「環境管理」(第 48 号)をお読みいただき、ありがとうございます。

日本では今年、ラグビーのワールドカップが、来年はいよいよ東京オリンピックが開催され、どちらも楽しみに待ち望んでいるところです。一方、アメリカと中国の貿易摩擦がヒートアップし、今後の世界経済はどのような方向へ進んで行くのか、成り行きが心配されます。

環境分野におきましては、地球温暖化対策は継続的に取り組まなければならない課題ですが、最近ではプラスチックごみによる海洋汚染が深刻化しており、G20 大阪サミットにおいても、この問題が議論されました。プラスチックごみの削減に向かって、世界的な計画が始まろうとしています。私達もレジ袋やストローなどの身近なプラスチック製品の使用制限には積極的に取り組んでいかなければならないと思われます。

さて、本誌「環境管理」は当協会が発足した年に創刊号が、その後、毎年継続して発行され、今回が第 48 号となりました。

本号は株式会社ビスネット代表取締役の久留百合子様に「巻頭言」として、消費者教育の歴史と重要性や持続可能な開発目標 (SDGs) の策定による消費者教育の発展への期待感を綴っていただきました。

本号の特集は「環境 DNA を考える」です。当協会において去る 5 月 13 日(月)、神戸大学大学院の源利文先生、福岡工業大学の乾隆帝先生および当協会生態工学室長の大井和之により、「環境 DNA 技術の現状と今後の展望」というテーマで座談会が開催されました。各先生から研究成果を紹介していただくとともに、今後の展開と課題について意見が交わされました。その様子を環境部長の藤井暁彦が報告いたしました。

山口大学大学院の赤松良久先生には実験水路におけるカワムツを対象とした環境 DNA 分析結果や実河川(佐波川、高津川および多摩川)におけるアユの生息状況の把握について最新の研究結果を紹介していただきました。

「特別寄稿論文」では、北九州市立大学の二渡了先生に環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001 の認証登録状況や国内の中小企業向けのエコアクション 21 認証登録数の推移、さらに福岡県内で ISO14001 の認証を取得した事業者へのアンケート結果を紹介していただき、国連サミットで採択された持続可能な開発目標 SDGs と関連し、今後、環境マネジメントシステムがさらに進展していく期待感を述べていただきました。

西南学院大学の勢一智子先生には国内の人口減少と国家政策としての「地方創生」、そこに掲げられた施策を推進する自治体の取り組み、産学官民金の尽力の重要性などについて論じていただきました。

エコアクション 21 審査員の松岡信明先生には、この制度において常に企業が求められるのは、環境負荷削減の実効性を重視した取り組みであることや、審査員としてのスキルアップの必要性などを紹介していただきました。審査に携わる際の謙虚かつ前向きな姿勢を垣間見ることができました。

「研究報告」では、公益活動推進センター長の中嶋雅孝が断熱型昇試験装置 (CASH) を用いた低品位炭の自然発熱に関する研究成果(中国電力、石炭エネルギーセンターおよび当協会の共同研究による)を報告いたしました。

また、生態工学室の大井和之室長は DNA バーコーディングによる生物同定技術を紹介いたしました。

「公益活動報告」として、初めて開催した「九環協オープンデー」(夏休み科学実験講座)について、公益活動推進センターの稲益崇がその内容と結果および今後の課題について報告いたしました。

ご好評をいただいている「いいたか放談」では、「長浜ラーメン」が大好きの中西弘先生に当協会の副理事長および有明研究会代表としての思い出をご執筆いただきました。

おかげさまで本号も興味ある内容豊かな冊子に仕上がりました。お忙しい中ご寄稿いただいた先生方と職員の皆様にあらためて感謝申し上げます。(松崎)

一般財団法人九州環境管理協会 会報

「環境管理」第48号

令和元年8月1日発行

発行者 百島 則幸

発行所 一般財団法人九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1

TEL (092) 662-0410(代)

FAX (092) 662-0411